

日本実務教育学会
The Japan Society for Professional Education Research

第3回大会プログラム

2023年6月25日(日)

京都光華女子大学

日本実務教育学会第3回大会実行委員会

日本実務教育学会第3回大会の開催にあたって

日本実務教育学会第3回大会を6月25日(日)に開催いたします。第1回ならびに第2回大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン開催となりました。

本大会は京都光華女子大学を大会会場とし、対面形式をメインとして開催の運びとなりました。本大会も自由研究発表、総会、シンポジウム、懇親会から構成されます。大会実行委員会で発表資格や発表内容を確認の上、16本の発表を受理させていただきました。今回も各委員から実務領域や研究領域に関する最新の知見をご発表いただけるものと思っております。参加者の皆様にはご興味ご関心に応じて部会にご参加いただければと存じます。

シンポジウムでは「学術と実務が出会うところ：知と行動の融合に向けた研究の可能性」と題し、実務と学術研究の相互作用から生じる価値に焦点を当て、「実務家が学術研究に関わること」および「研究者が実務に参画すること」によってどのような新たな価値が生まれるのかを探求します。

名和 高司先生(京都先端科学大学 一橋大学大学院),比嘉 夏子先生(合同会社メッシュワーク),西村 歩先生(モデレーター・株式会社 MIMIGURI)の3氏にご登壇いただき、ご自身の実践や研究の事例とともに共有いただきます。自由研究発表の各報告のタイトルと内容、シンポジウムの趣旨につきましては大会プログラムをご参照下さい。

本大会においても参加者同士の活発な交流となり、実務家、実務家教員、研究者教員のネットワーク構築に寄与できる好機となりますようお願いしております。

なお、初めての対面形式でもあり運営面など至らぬ点多々あるかと存じますが、大過なく実施できるよう準備を進めてまいりますので、ご参加、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

第3回大会委員会
委員長 上田 修三
(実務家教員養成課程大阪校2期生)

大会案内

1. 大会日程

- 2023年6月25日（日）

2. 実施スケジュール

- 10:00～12:00 自由研究発表 I～IV 【対面形式】
- 12:00～13:00 昼休憩
- 13:00～13:30 総会 【対面形式】
- 13:45～15:45 シンポジウム 【対面形式+Zoomによるオンライン中継】
「学術と実務が出会うところ：知と行動の融合に向けた研究の可能性」
- 16:00～17:30 懇親会 【対面形式】

3. 大会参加方法

- 大会への参加をご希望される方は下記 URL よりお申し込みください。
<https://jsper.coep.jp/convention2-2/>
- 大会に参加される方は、以下に記載の金額を **6月23日（金）まで**にお支払いください。
 - 会員（正会員・仮会員）、かつ大会当日の懇親会に参加をされる方 8,000円
 - 会員（正会員・仮会員）、かつ大会当日の懇親会に参加をしない方 5,000円
 - 非会員、かつ大会当日の懇親会に参加をされる方 13,000円
 - 非会員、かつ大会当日の懇親会に参加をしない方 10,000円
- 大会は対面形式にて実施します（シンポジウムのみ Zoom によるオンライン中継もします）。
研究大会、シンポジウム（オンライン中継）の参加方法等は別途メールでお知らせします。

4. 自由研究発表要領等

- 発表時間：発表 15分、質疑 5分（計 20分）
- 全体討議：20分
- 発表者がやむをえない理由により欠席する場合には、速やかに学会事務局（jsper@coep.jp）までメールでご連絡ください。なお、その場合、発表時間と発表の順番の繰り上げは行わず、司会者の判断により、休憩または討議の時間に当てます。

5. 発表要旨集録

- 『発表要旨集録』は大会参加者の方を限定に、データで配布いたします。

6. 問合せ先

大会に関してご不明な点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

MAIL：jsper@coep.jp／TEL：03-6273-8840

自由研究発表Ⅰ

—教育実践—

司会：篠田 雅人（早稲田大学）

9:55 開会

10:00～10:20

大学生世代の心理的特性を考慮した「対話を紡ぐ力」の必要性

～グループ対話を共創的対話の場にするために～

○佐藤 宏樹（社会構想大学院大学 実務教育研究科
／東京工科大学 教養学環（兼任講師））

10:20～10:40

動画を用いた防災広報 ～鹿児島地方気象台での事例～

○江沼 英篤（社会構想大学院大学）

10:40～11:00

児童・生徒が情報活用スキルを身につける学校図書館

—教育課程の展開に寄与する学校図書館を蔵書構成の問題から考察する—

○鈴木 真理子（社会構想大学院大学）

11:00～11:20

実務家教員によるキャリアデザイン教育の実践

—アクションリサーチ分析による2年間の考察—

○岩出 朋子（株式会社 Career Design Lab.
千葉経済大学 名古屋産業大学）

11:20～11:40 全体討議

自由研究発表Ⅱ

—実践知—

司会：富井 久義（社会構想大学院大学）

9:55 開会

10:00～10:20

日本語教育機関における担任業務の実践知に関する省察 ——進捗表・カリキュラムに注目して

○濱田 礼子（社会構想大学院大学）

10:20～10:40

実務・教育・研究再考

○伴野 崇生（社会構想大学院大学）

10:40～11:00

教育において「理論」はなぜ必要なのかーピアノ指導実践経験に基づく省察的考察

○廣瀬 道代（リトミック&ピアノ

体験型音楽教室スタジオ SWING)

○伴野 崇生（社会構想大学院大学）

11:00～11:20

学習内容の実践を促す実践知の一事例：研修ファシリテーターの Knowledge of Practice

○渡邊 規和（社会構想大学院大学 実務教育研究科）

11:20～11:40 全体討議

自由研究発表Ⅲ —実務家教員—

司会：川山 竜二（社会構想大学院大学）

9:55 開会

10:00～10:20

実務家教員の3能力に関する一考察 ～「研究能力を有する実務家教員」の実践を通じた試論～

○江幡 真史（東京保健医療専門職大学

リハビリテーション学部理学療法学科）

10:20～10:40

産学官連携の推進に資するコーディネート力を持つ実務家教員の必要性

-宮崎大学学び・学生支援機構地域人材部門における実務家教員の役割を事例とした検討-

○中山 隆（宮崎大学）

10:40～11:00

実務家教員の科目担当能力を中心とした教育力構築の課題についての考察

—経営戦略のフレームワークからの体系的方法の考察—

○脇 拓也（獨協大学）

11:00～11:20

教材開発における初期課題と改善の実践

—「実践知」の変換過程で生じる歪みと経営学的アプローチによる補正—

○島田 達人（新潟経営大学

経営情報学部スポーツマネジメント学科）

11:20～11:40 全体討議

自由研究発表Ⅳ

—人材育成—

司会：安藤 勉（電通コーポレートワン／電通グループ）

9:55 開会

10:00～10:20

ユースワーカーのリフレクションを促進させるプロンプター（共同ふりかえりの参加者）の存在意義

○佐渡 加奈子（社会構想大学院大学 実務教育研究科）

10:20～10:40

組織内知識創造を支える「ナレッジカタリスト」の人材要件定義

○西村 歩（株式会社 MIMIGURI

/東京大学大学院情報学環）

○瀧 知恵美（株式会社 MIMIGURI）

10:40～11:00

多職種連携を促進するコミュニケーション研修の在り方

～相互理解のための内製型コミュニケーション研修の試みから～

○佐藤 文子（学校法人银杏学園 熊本保健科学大学

アカデミックスキル支援センター）

11:00～11:20

企業情報システムのDX化促進に必要な業務知識についての考察

～システムのオープン化などが業務システム開発に与えた影響～

○田村 一彦（自営業）

11:20～11:40 全体討議

シンポジウム

学術と実務が出会うところ：知と行動の融合に向けた研究の可能性

【時間】

- 6月25日（日）13:45～15:45

【登壇者】

- 名和 高司 先生（京都先端科学大学 一橋大学大学院）
- 比嘉 夏子 先生（合同会社メッシュワーク）
- 西村 歩 先生（モデレーター・株式会社 MIMIGURI）

【登壇者プロフィール】

名和 高司先生



東京大学法学部卒、ハーバード・ビジネス・スクール修士（ベーカーズカラー授与）。三菱商事の機械（東京、ニューヨーク）に約10年間勤務。2010年まで、マッキンゼーのディレクターとして、約20年間、コンサルティングに従事。自動車・製造業分野におけるアジア地域ヘッド、ハイテク・通信分野における日本支社ヘッドを歴任。日本、アジア、アメリカなどを舞台に、多様な業界において、次世代成長戦略、全社構造改革などのプロジェクトに幅広く従事。

2010年6月より、一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授に就任、現在、同校客員教授。2020年4月より、京都先端科学大学客員教授に就任、現在、同校教授。デンソー（～2019年まで）、ファーストリテイリング（～2022年まで）、味の素、SOMPOホールディングス、NECキャピタルソリューション（いずれも現在も）の社外取締役、朝日新聞社の社外監査役、ならびに、ボストン・コンサルティング・グループ（～2016年まで）、インターブランド、アクセンチュア（いずれも現在も）のシニア・アドバイザーを兼任。

比嘉 夏子先生



人類学者。博士（人間・環境学、京都大学）。合同会社メッシュワーク共同創業者。株式会社 Hub Tokyo 顧問。岡山大学文明動態学研究所客員研究員。

オセアニア島嶼社会の経済実践や日常的相互行為について継続的なフィールドワークを行う一方で、より実践的な人類学のあり方を模索し、合同会社メッシュワークを設立。人類学的アプローチを多様な現場で活かすべく、組織や個人の伴走支援を行う。

著書に『贈与とふるまいの人類学—トンガ王国の〈経済〉実践』（単著、京都大学学術出版会）『地道に取り組むイノベーション—人類学者と制度経済学者がみた現場』（共編著、ナカニシヤ出版）などがある。

【趣旨】

2023年6月25日に日本実務教育学会が開催する第3回研究大会において、シンポジウム「学術と実務が出会うところ：知と行動の融合に向けた研究の可能性」を実施いたします。本シンポジウムでは、実務と学術研究の相互作用から生じる価値に焦点を当て、「実務家が学術研究に関わること」および「研究者が実務に参画すること」によってどのような新たな価値が生まれるのかを探求します。

近年では、実務家が大学などの学術機関において実務家教員として活躍の場を広げている一方で、アカデミックベンチャーや研究方法論のビジネスへの応用など、研究者が実務の世界に飛び込む事例も増えてきています。

そこで本シンポジウムでは、学術研究に関わる実務者がなぜ学術の世界での活動を継続するのか、研究にどのような可能性を感じているのか、また実務に活動を広げる研究者がなぜ実務に参画する道を選んだのか、実務における学術の価値とは何か、このような主題で2人のパネリストのお考えをご自身の実践や研究の事例とともに共有いただきます。

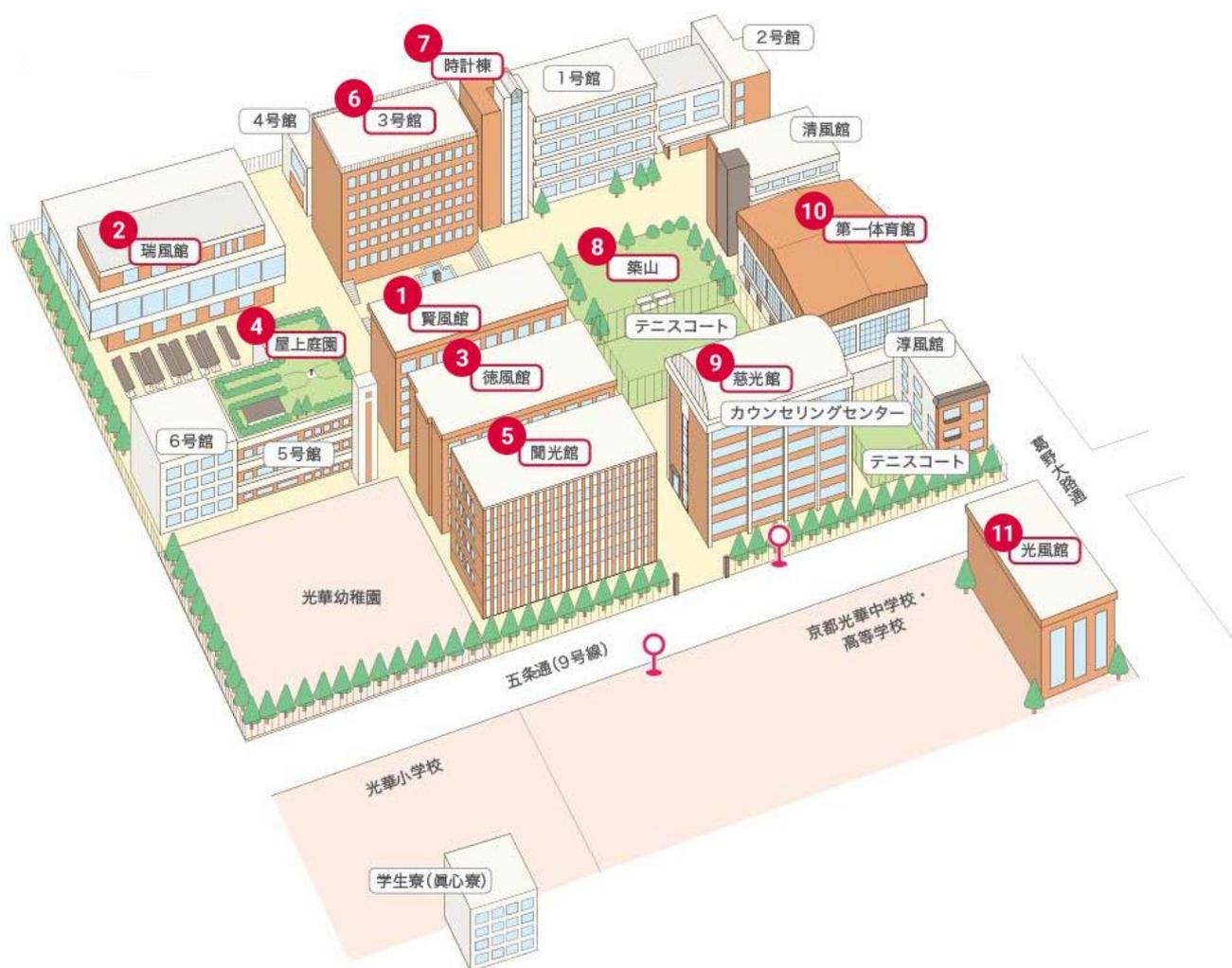
その上で会場にご参加のみなさまを交えて実務と研究がどのように互いに触発し合うのかについて議論を展開します。

本シンポジウムを通じて、学術と実務がつながることの価値についての理解を深め、新たな可能性を模索していきたいと思っております。ぜひご参加ください。

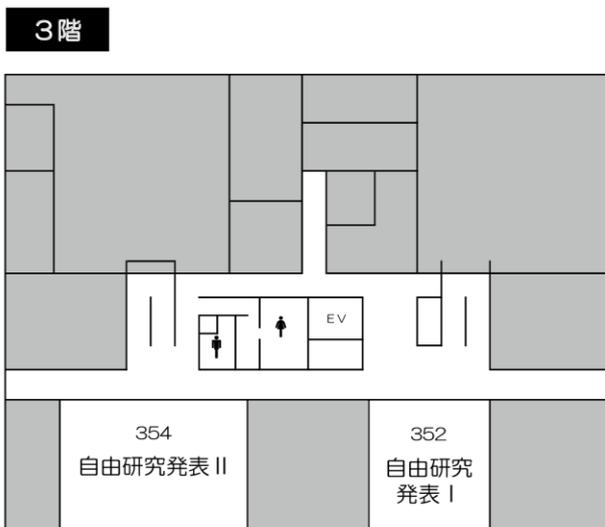
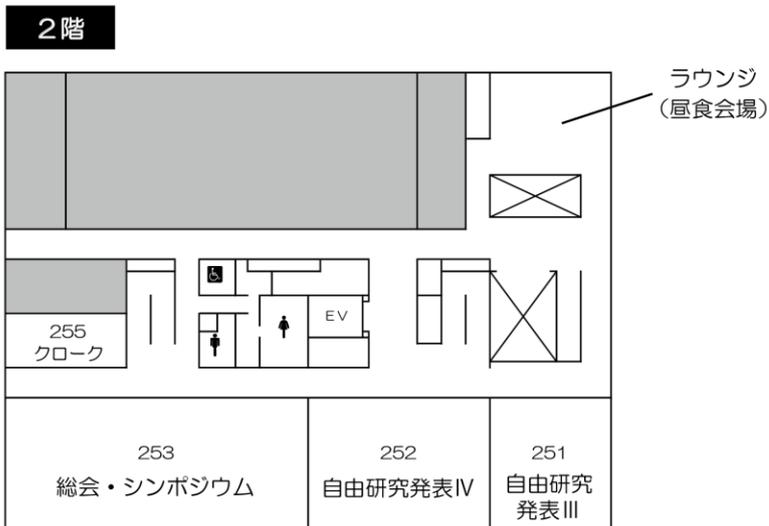
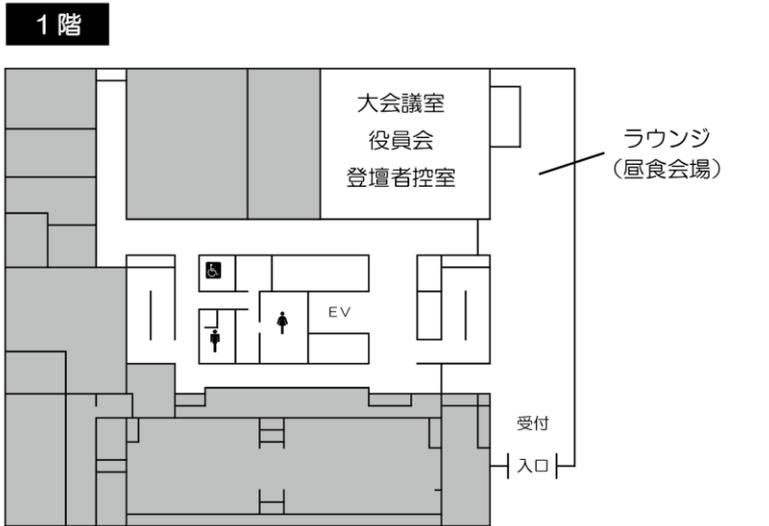
会場案内

●大会会場は、⑤聞光館（もんこうかん）です。

●懇親会の会場は、②瑞風館（ずいふうかん）1階食堂です。



●大会会場となる⑤聞光館内の各発表会場は下記のとおりです。



日本実務教育学会第3回大会プログラム

日本実務教育学会第3回大会実行委員会

委員長 上田 修三

委員 眞崎 光司

委員 西村 歩

発行者 日本実務教育学会第3回大会実行委員会

問合せ先 日本実務教育学会事務局

〒107-0062 東京都港区南青山3-13-18 (一社)教育人財開発機構内

MAIL : jsper@coep.jp / TEL : 03-6273-8840